

本年4月にウルグアイのムヒカ元大統領が来日した。彼は決して偉ぶらず、「世界で最も貧しい大統領」と称され、その慎ましい暮らしの行動は世界中で絵本にもなった人物である。

この場で彼の政策に関し、意見を述べるつもりは毛頭ないが、現代の行き過ぎた経済競争に警鐘を鳴らす独自の「幸福論」には大変興味を覚えた。経済の拡大が目指すことの問題に関し、国際会議での彼の演説は大きな反響を呼び、世界中で広く報道された。

人々は物欲を満たすために経済を益々拡大させなければならなくなり、その結果として時間に追われ、朝から晩まで健康を害してまでも仕事漬けの毎日を余儀なくされる。必要最小限の

「幸せ」とはなんだ



物でも十分に暮らす事は出来るし、幸せとは多額の金銭を得る事ではなく、家族や友人と過ごす時間的な余裕が有る事であり、欲望を満たすために自由な時間を犠牲にしてまでも働く事は人間として最も不幸な事であると彼は説いている。

確かに正論、自分も出来る事ならそうありたいと思う。しかし、この時代のこの国に生を受け、そんな生活は夢のまた夢であるのが現実である。

ムヒカ元大統領の報道を見るたびに自分の人生を振り返る。辛くて全てを投げ

出したくなる衝動に駆られた事は何回もあった、でも実際には投げ出したりの逃げ出したりの事は勿論一度も無い、いや出来なかつた。

以前より貧乏性な私はスケジュール帳に空白の欄が有ると心配になってしまふ。「何かしなくては…」との強迫観念にも近い感情が芽生えてしまふ。「立ち止まったら直ぐに追い越される。絶えず前進し続けなければならぬ」と社員には常日頃号令をかけている。

多分、ムヒカ氏に言わせれば「不幸な人間」と一括されてしまふのだろうけれど、馬車馬のごとく走り続ける我々は本当に不幸な人間なのだろうか？

数字や時間に追われてばかりかも知れないが、苦勞の末に数字を達成した時の充実感は何事にも代えがた

いし、やり繰りして作った時間での家族団らんや友人との語らひは、その時間が短くても素晴らしいひと時だと私は感じている。仕事人間を卒業し、「毎日が日曜日」を謳歌している人を羨ましく思う時もあるが、週日が有るから週末が楽しいのだと信じている。

そもそもムヒカ氏の言う「幸せ」を経験した事もないので比較対象は出来ず、自分にとっての「幸せ」とは何か？の質問に正解は見つけられない。先日、定時

総会において、関東コイルセンター工業会会長を拝命した。今後、益々忙しい日々が続く、今まで以上に私のスケジュール帳は真っ黒に埋め尽くされると思うが、ある意味それが私にとっての「幸せ」なのだろうと納得している。